

令和6年度第2回帯広市環境審議会 議事録（概要）

○日時：令和7年2月26日（水）14:00～15:13

○場所：帯広市役所 10階 第5B会議室

○出席者：

- ・委員：有働委員、小川委員、加納委員、河村委員、鈴木委員、丹羽委員、宗岡委員、谷地委員（計8名）
- ・事務局：高橋都市環境部参事、岡田環境室長、西島環境課長、泉係長、関井係長、石川主任、東主任、葛西主任補
- ・傍聴者等：報道関係者1名

○配付資料：

- ・環境モデル都市の取り組みについて
- ・個別事業に関する進捗状況報告書
- ・環境モデル都市アクションプランの成果

○次第：

1 開 会

2 議 事

（1）報告事項

- ・令和5年度環境モデル都市行動計画フォローアップについて

（2）報告事項

- ・第3期環境モデル都市行動計画の取組総括について

（3）その他

3 閉 会

議事（1） 報告事項－令和5年度環境モデル都市行動計画フォローアップについて

上記報告事項について、事務局より説明。

委員からの意見・質疑

【委員】「1. 帯広市内からの温室効果ガス排出量の推移」において「産業部門と運輸部門、業務その他部門の増加は、新型コロナウイルスの影響で落ち込んでいた経済の回復等によるもの」と書かれていますが、グラフを見ると、産業部門については2018年度から2019年度にかけて1.5倍増加しています。新型コロナウイルスは2019年の後半から感染拡大しているので、コロナ禍収束により温室効果ガスが増加したのであれば、2018年度から2019年度にかけては減少傾向を示すものと考えますがいかがでしょうか。

【事務局】温室効果ガス排出量の算定にあたっては元データとして国の統計を使用していますが、2019年度に北海道において産業部門の排出量の算定方法が変更となり、農業の個人経営体からの排出量も含めることとなったため、産業部門全体の排出量が増加したものです。そのため、2018年度から2019年度にかけての産業部門の排出量増加は新型コロナウイルス関連の影響によるものではありません。

【委員】そのような変更があったのであれば、資料の中で注釈を入れてくれないと矛盾を感じる人が出てくると思います。

【委員】2018年から2019年にかけて各カテゴリーの考え方が変わったのではないのでしょうか。産業部門の増加に対して業務その他と家庭は減少しているので、考え方が変わったことで配分が変動したのだと思います。なので、2019年度以降でしか比較できないのではないかと思います。

【委員】2019年度の産業部門の算定方法が変更となったことを記載すると良いと思います。

【委員】棒グラフについて、2000年度の隣が2009年度になっていますが、2001年度から2008年度まで省略されているように見えないので、2000年度と2009年度の間を離すとか線を引くとかすると見やすいと思います。また、資料においてグラフや表は番号を付記してほしいです。

【委員】環境モデル都市の計画を策定した当時はカーボンオフセットという概念があまり浸透していなかったと思いますが、現在はCO₂を吸収するための様々な手法があると思うので、帯広市で実施している取組を積極的に報告してほしいです。

【委員】最近は学校にも各教室にエアコンが設置され始めていますが、それだけだと電気代がすごくか

かかると思います。窓にフィルムを貼るなど費用負担の少ない工夫をすることで、快適性、省エネも実現するような対策ができれば電気代の節約にもなり帯広市にとってもメリットがあるのではないのでしょうか。

【委員】エアコンの電気代はどうしてもかかるコストですし、単価の上昇と極端な気温という二重の負荷があり抑えにくい部分もあると思うので、電気代を上げすぎないためにどうするかという観点も大切だと思います。

議事（２）報告事項―第３期環境モデル都市行動計画の取組総括について

上記報告事項について、事務局より報告。

委員からの意見・質疑

【委員】水素といえば酸素と結びついて爆発する危険なイメージがあるのですが、これから実際に有効なエネルギーになるのでしょうか。

【委員】水素は原子の中で最も質量数が小さいので、濃縮すると軽くて済むというメリットもあるので、今後活かしていける可能性があると思いますが事務局から何か補足等ありますでしょうか。

【事務局】帯広市も過去に家畜糞尿由来の水素を活用した水素サプライチェーン実証事業にも参画したところで、今後様々な検討をしていく中で、一つの検討項目として考えていきたいと思っています。

【委員】産業部門の令和５年度削減実績において農地への堆肥施用面積が 10,937.1ha と記載されていますが、もし数字を持っているのなら農地への堆肥施用量も併記してはいかがでしょうか。堆肥は農地に散布することで一部は炭素として貯留される機能もあるので、炭素の貯留量について定量的に評価することは難しいとしても、規模を示すことはできるのではないかと思います。

【委員】バイオマスのインプットとアウトプットをできるだけ明確にすることが環境を考えるうえで非常に大事だと思います。

【事務局】資料自体は既に内閣府に報告しているものであり修正はできませんが、ご指摘の堆肥施用量については担当課の農政課にも意見を共有したいと思います。

【委員】CO₂削減によるクレジットの算出は環境課で自前でやっているのでしょうか。それとも外部のコンサルティング会社などに委託しているのでしょうか。

【事務局】太陽光発電設置による CO₂削減量は環境課で算出しているものではなく、外部の団体に依頼しています。環境課は「モニタリング」といって、抽出調査という形で太陽光発電を導入して

いる市内の家庭から発電量や売電量を聴取しています。外部団体にはこの聴取結果をもとにCO2削減量を算定していただいています。

【委員】クレジットの販売先は市場ですか。それとも相対で特定の自治体と取引していますか。

【事務局】クレジット自体は北海道環境財団に預かっていただいております、当該団体において希望する企業に対して帯広市分のクレジットを売っていただいています。特定の自治体等とのやり取りは特にありません。

【委員】個別事業に関する進捗状況報告書について、左から4列目に資料番号という欄がありますが、この資料番号はどの資料を指しているのですか。また、同じ資料に「部門」という欄がありますが、事業によっては空欄のものがあります。これはどの部門にも属さないということでしょうか。

【事務局】個別事業に関する進捗状況報告書については、内閣府に提出している資料をそのまま報告しているものですので、今回の審議会資料の資料番号とは結びつかないものです。また、「部門」の欄は各個別事業の温室効果ガス排出量を計算した際に、どの部門に加算しているかを示しているものであり、「部門」欄が空欄になっている個別事業については温室効果ガスの削減量を計算できないものです。

【委員】内閣府に提出された資料を市民が閲覧することは可能でしょうか。

【事務局】資料は例年3月下旬以降に内閣府のホームページで公表されます。今年度は公表が若干遅れる旨連絡を受けていますが、おそらく4月の初旬には公表されると思います。

【委員】帯広市のホームページには内閣府のページへのリンクはありますか。

【事務局】帯広市のホームページには当該リンクは掲載していません。

【委員】容易に資料へアクセスできる手段があるとありがたいです。

【委員】様式5の資料を見ると、家庭部門では太陽光発電の普及や省エネ機器の導入等の実績が記載されていますが、家庭でCO2を削減する方法としてはゴミの削減や有効利用が重要だと思います。我が家でもゴミの減量のためにコンポストを導入していますが、近所ではあまり見ることがなく、普及していないと感じています。

【事務局】コンポストの普及については清掃事業課において購入助成などの施策を進めています。また、運輸部門の取組ではありますが、家庭用廃食用油の回収事業も削減に繋がると考えています。毎年広報おびひろに折り込んでいるチラシにおいてもそのような取り組みが削減に繋がるということを発信していますし、今後も継続して発信していきたいと考えています。

【委員】2月4日の大雪ではひどい渋滞が発生していました。おそらく渋滞待ちの車のアイドリングで大量のCO2が出ていたのではないかと思います。もし全体で調整して出勤時間をずらすように呼びかければもう少し渋滞も緩和できたのではないのでしょうか。誰がどのように呼びかけるかという課題はありますが、行政がリーダーシップを取って呼びかければ企業側も応じやすいと思います。

【委員】家庭生活というのは絶対にあるので、それを見直さなければ、おそらく家庭部門の排出量は上がり続けるのではないかと思います。温暖化によってエアコンの需要が増えればその分 CO2 の排出量も増加します。学校のエアコンの室温を上げて子どもたちに我慢させるのではなく、大人たちが 1 日 30 分だけでも不自由な時間を作るように努力していけば、少しは排出量の増加を抑制できると思います。このような意識改革について市役所が啓蒙してくれると良くなるのではないかと思います。

議事（3）その他

委員からの意見・質疑

【委員】帯広市内のアライグマ捕獲頭数の傾向について教えてほしいです。

【事務局】帯広市においては昨年度（令和 5 年度）が 98 頭で、今年度（令和 6 年度）は現状 78 頭ほどとなっています（※令和 7 年 2 月 26 日現在）。今年度は昨年度より冬場の捕獲が低調ではありますが、令和 3 年度は 62 頭、令和 4 年度は 67 頭と徐々に捕獲頭数が増加しています。例年春先には猟友会の協力のもと雌の妊娠個体を狙った捕獲を実施しており、今年も実施する予定です。

【委員】アライグマはどのように捕獲していますか。発砲には至っていませんか。

【事務局】現在は箱わなでの捕獲を実施しています。